備考 ２）点検及び評価に係る学識経験者の意見について

福山市教育委員会が実施した「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」について，教育に関し学識経験を有する者から，次のとおり意見を聴取した。

【学識経験者】

名　前	役職等
伊澤　幸洋	福山市立大学副学長
永井　康浩	福山市ＰＴＡ連合会会長
藤井　眞弓	福山市図書館協議会委員

（五十音順）

【意見の要旨】

（就学前教育に係る主な意見）

◇　幼保小連携により，公立・法人立の就学前施設が学びをつなぐという共通認識をもち，同じ方向をめざし取り組んでいることがとてもよい。小学校には学区内だけでなく遠隔地の幼稚園・保育所に通っていた子どもも入学するため，発達障がいのある子どもが小学校に入学して困り感をもたないよう，幼稚園・保育所との早めの連携が重要だと思う。

（学校教育に係る主な意見）

◇　学力調査正答率４０％未満の児童生徒に対する今後の取組について，研究者を入れて要因分析をする考えはないか。全市的に取り組むのは難しいかもしれないが，パイロット校を指定し，戦略的に分析できるといいと思う。

◇　不登校児童生徒数が増加している。学校図書館の環境整備が進んでおり，学校図書館補助員が配置され，子どもとの交流もあると聞いた。そこで，本や学校図書館補助員を通して，不登校児童生徒とつながることは考えられないか。本は，子どもが希望や目標などを見出す絶好のチャンスになると思うので，一人ひとりに合った本を提案するなどの取組があるとよい。

◇　学校に行きづらい児童生徒がなんらかの場や人につながる環境整備や，保護者を対象にした相談会の開催などの保護者支援に取り組まれており，今後もさらに充実させていただきたい。新たな視点として，不登校の状況を欠席日数（３０日以上，９０日以上，１５０日以上など）で分けて見てみると，欠席日数を踏まえ対応すべき手立てが検討できるのではないか。

◇　部活動の地域移行について，今は方向性が見出しにくい過渡期にある。地域のスポーツクラブやスポーツ少年団がある中で，学校の部活動をどうしていくのか，様々な場で議論を重ねていく必要がある。目的は，教員の業務改善が図られることであり，授業の準備時間の確保につながるとよい。

◇　中学生の登下校時の交通事故が増加傾向にある中で，ＰＴＡとしてできることがあるのではないかと思っている。事故が発生しやすい場所等について，市教委から各学校に，学校からＰＴＡに発信してもらえるような仕組みがあると，より連携していけると思う。

（生涯学習・社会教育に係る主な意見）

◇　交流館に無線ＬＡＮが整備され，オンライン講座など地域のデジタル化が進んでいることを実感している。地域で活動する団体は積極的に利用していこうと思っているが，どのように利用したらよいか分からないという状況がある。交流館は，利用手順や活用例などの情報を発信するなど，市民に分かりやすい取組をお願いしたい。

◇　Ｗｉ－Ｆｉ環境が整備される一方で，対面でのコミュニケーションも重要である。会議や講義などの性質や内容により，リモート，対面，両方の組み合わせなど，どういう行事にどのやり方が向いているかを考えて実施するとよいのではないか。

◇　図書館においては，電子図書サービスが導入され，市民の読書の選択の幅が広がっていると感じる。一方で本は，他の中核市と比較し，回転率は高いが蔵書数が少ない。市民ニーズを多角的に見る中で

蔵書数を増やし，より市民が情報を手に取りやすいように取り組んでほしい。

（文化財保護に係る主な意見）

◇　福山城築城４００年記念事業は，開かれた形で文化財に接することができた非常に良い機会であった。福山市には福山城以外にも多くの文化財があり，文化財保護を進めている。「今後のアクションプラン」にあるように，文化財の調査や保存，修理の成果を広く市民が活用できるよう，文化財にアクセスしやすい仕組みがあるとよい。